

区政のここが聞きたい

一般質問と答弁 要旨

●詳細は、目黒区議会会議録または区議会ホームページの「会議録閲覧・検索」をご覧ください。



新しい「令和」の時代。誰もが輝く目黒を目指して

自由民主党目黒区議団 河野 陽子 議員

<保育園児の散歩ルートの点検について>
 (1)散歩中の保育園児2人が死亡した事故を受け、保育園の散歩ルートの点検をどのように行っていくのか。(2)対策を講じる必要がある箇所が判明した場合、費用負担を含めどのように改善していくのか。

区長 (1)施設周辺の道路、日常的に利用する散歩経路や公園等に、日頃の園外活動中に気づいた危険箇所等がないか調査を開始した。(2)今回の事故を受けて新たな補助制度に関する情報はないが、国や東

京都の動向を注視し、活用可能な制度があれば、積極的に取り入れていく。

<高齢ドライバーの免許返納促進について>
 高齢ドライバーによる重大事故が後を絶たない。区は免許返納等に更なる啓発が必要である。また、運転をやめても日常生活に支障がないよう、コミュニティ交通の実現が重要だがどのように考えているのか。

区長 地域交通の支援について検討するため、区民へのアンケート調査によりニーズを把握し、学識経験者・各関係機関

への聞き取りを行い、地域交通の方針をまとめていく。免許返納促進については、国や都、警視庁の動向を踏まえながら検討していく。

<「ひきこもり」に対する対応について>
 8050問題(※)を含む「ひきこもり」は幅広い年齢層の問題であり、今後深刻化することが懸念されている。個人や家族が抱える複合的課題に対し包括的支援・多職種連携が必要だが、人材の育成を含め今後「ひきこもり」支援についてどのように取り組んでいくのか。

区長 ひきこもりの当事者や家族の声に耳を傾ける必要があり、相談を待つのではなく、積極的に地域に出向き、支援を要する当事者の発見に努め、ソーシャルワークによる相談、支援を提供し、関係機関と連携を図りながら、問題解決に向けた継続的な支援を行っていく。

<高齢化社会に向けた区の考え方について>
 (1)高齢化社会において、元気な高齢者を高齢者として扱わない、高齢者が「戦力」となるよう、社会参画プラットフォームを整えていくべきだがいかがか。
 (2)高齢者の拠点や施策のネーミングに「アクティブシニア」を連想させるような呼称・愛称を考える必要があると思うがいかがか。

区長 (1)企業や地域での活躍ができるようマッチング支援等の検討、高齢者1人ひとりに合った活躍の場をより一層提供していきよう組織横断的に取り組んでいく。(2)老人クラブ連合会、老人いこいの家の利用者から意見を聞き、呼称等は検討していく。

【用語解説】

※8050問題:80代の高齢の親と引きこもる50代の未婚の子が同居する家族の諸問題。



子どもたちを守るため、区内に安全対策を強化せよ!!

公明党目黒区議団 佐藤 ゆたか 議員

<通園・園外保育等の安全対策強化>
 各地で多発する園児などが巻き込まれる事故、未来を担う子どもを守るための安全対策を強化が必要である。(1)園外保育の安全確保のため、早急に点検せよ。(2)安全対策に必要な措置をせよ。(3)区が主

導し、マニュアルの点検・見直しせよ。(4)事故により園児の保育、教育が制約されないよう配慮せよ。

区長 (1)現在、行っている調査を取りまとめ、庁内関係部局、警察等と情報共有して対応していく。(2)ハード面での安全対策

は、関係機関と連携して措置を行い、ソフト面では、子どもや保育士を危険から守る方策を検討したい。(3)既存のマニュアルは、早急に見直しを行う。(4)十分な園外活動確保の観点から、ヒーローバスの増車を検討する。

<自転車利用に関する安全対策を>
 自転車利用が増えるとともに自転車が発見との事故が発生。交通ルールやマナーへの理解不足、安全利用に自転車条例、誰もが加害者となりうることから保険加入を義務化が必要である。(1)シェアリング事業の利用実態、事業の展望と課題について。(2)自転車保険加入の義務化が必要で

ある。(3)自転車の安全利用を目的とした自転車条例制定が必要である。

区長 (1)自転車の活用を推進していく一方で、自転車利用者に対する交通ルールや運転マナーの周知、事故の発生抑制につながる仕組みづくりが課題である。(2)自転車保険の加入促進を図る方策が重要であり、今後保険の種類や加入方法の周知など、検討を行っている。(3)自転車保険加入の義務化を含めた自転車の安全利用に関する条例を、令和元年度内の制定を目指し取り組みを進めていく。



人と人がつながり「人生100年時代を生きる」目黒へ

立憲民主・目黒フォーラム 鴨志田 リエ 議員

<人生100年時代を生きる>
 香港は3年連続で男女とも世界一長寿となった。「人とのつながり」が長寿社会を形成している。(1)高齢者のつ

ながりの場「老人クラブ」「老人いこいの家」の加入率を上げよ。(2)元気な高齢者に入り口を閉ざす「老人」の名称を変えよう。(3)社会から孤立する

中高年と家族の事件が相次いだ。ひきこもりの相談体制と居場所づくりを進めよ。

区長 (1)高齢者のいきがい活動を支援していくとともに、住み続けたいまち目黒の実現に向けて取り組む。(2)老人いこいの家の利用者から意見を伺いながら、愛称等で「老人」の名称を変更することについて、検討していく。(3)担当業務を担う職員の一層の能力向上をはじめ、様々な関係機関と連携を図りながら、相談支援体制の強化を図って

いく。

<第一中学校を中高一貫教育校へ>
 中学校統合の対象外の中中は長年生徒数が少なく校舎は古い。隣接の都立駒場高校の中高一貫校として開校せよ。
教育長 新たな中高一貫校の設置は極めて難しい状況ではあるが、東京都教育委員会の今後の動向に注視していく。



国保料引き下げ、土のリサイクル、補聴器助成について

日本共産党目黒区議団 芋川 ゆうき 議員

<国保料引き下げについて>
 子どもの数が多いほど引き上がる国保料の均等割には、まるで人頭税、子育て支援に逆行している。(1)区長は均等割が子育て世代の暮らしを圧迫している現状を

どう認識しているか。(2)子ども3子以降の均等割減免をするべきである。
区長 (1)国民健康保険制度において、子育て世帯の経済的負担を軽減する必要がある。子ども3子以降の均等割減免については、子育て世代の暮らしを圧迫している現状を



地元大学と連携した、区独自の震災対策を打ち出せ!

新風めぐろ 青木 英太 議員

<地震に強いまちづくりについて>
 には地震の予測等を行う研究室があるが、分野における地元大学との連携を考えてみたいかがか。
区長 (1)避難所運営協議会への活動支援や地域の防災力の向上のため、地域に防災リーダーとして活躍する防災士への支援を実施している。(2)東京

には地震の予測等を行う研究室があるが、分野における地元大学との連携を考えてみたいかがか。
区長 (1)避難所運営協議会への活動支援や地域の防災力の向上のため、地域に防災リーダーとして活躍する防災士への支援を実施している。(2)東京



虐待される真の弱者に向けた目黒区の取り組みについて

白川 愛 議員

<私は3人の子どもの母として無力な子どもたちの安全を守りたい。情報共有で行政内の連携を進め、全施策を活用すべきである>

(1)情報連携は十分と考えているか。(2)区長部局内のPDCAサイクルの改善が必要ではないか。(3)教育部局と区長部局の連携状況の改善が必要ではないか。(4)不審



既定路線からの転換。ひととひとがつながるまちづくり

たぞえ 麻友 議員

<避難所ではない庁舎の備え>
 目黒区総合庁舎は一時避難所ではないが、他の災害では、庁舎に駆け込む例がある。災害発生時、帰宅困難者も含め、庁舎への避難者をどう想定しているか。
区長 一時的に避難者の方を受け入れ

るスペースを確保するなど、必要な対応を図っていく。また、帰宅困難者が総合庁舎に来る可能性はあるが、総合庁舎が災害時に想定している機能に支障がないよう、中目黒駅周辺の民間施設との一時滞在施設に係る協定の締結を進めて

て、財政措置を国が責任をもって行うべきものと考え、引き続き国等に対して要望していく。

<園芸土のリサイクルについて>
 使用済み園芸土を処分できない実態がある。(1)土のリサイクルイベント「めぐろプラン土花再彩」を再開すべき。(2)生ごみ処理機助成制度を創設すべき。

区長 (1)家庭で無理なく取り組める方法の周知に努め、現段階で再びイベントを行う考えはない。(2)生ごみの減量のために、電力消費を伴う機器に対する助成は行うべきではない。

<補聴器助成について>
 認知症の予防可能な最大危険因子である難聴のせいで孤立させない地域に向けて。(1)区としての認識を問う。(2)補聴器助成制度を作るべきである。
区長 (1)補聴器等を適切に使用することで、社会的交流を維持し、認知症のリスク低減にもつながるもの考える。(2)難聴の放置が認知症の要因となることを踏まえ、放置しないことが予防策になることの普及・啓発を行う。

工業大学の知的財産を地域の安全・安心にフィード・バックすることが、この協定の大きな意味である。先行事例も見ながら検討もし、協定が地域に資するようにしっかりとした対応をしていきたい。

<シンボルである桜の保全について>
 今年も中目黒の桜には300万人以上の人を訪れている。桜は目黒のシンボルであり、大切な観光資源である。(1)桜の保全事業に活用されている「目黒のサクラ基金」について、より積極的な周知が必要と考えるがいかがか。

区長 (1)現在、さくらMAPを使ったPRでは、マナーやお願い等の啓発事項を

書いているため、サクラ基金に関しての周知については、行っていないが、全体も含めて、後世に大事なさくらを残す基金の向上のために努力をしていきたい。

<学校での政策コンテストの実施を>
 子ども達が主体的に考える意識を醸成する主権者教育を目的とした、区立学校を対象とした政策コンテストの開催を提案するがいかがか。
教育長 今後、区立学校における主権者教育の一環としての政策コンテストが、どのようなふうにできるのかどうかも含めて、調査・研究を進めていきたと考えている。

者情報の集積・共有を進めて行政は常に把握すべきではないか。(5)防犯カメラの効果的配置を行政が後押しして実現すべきではないか。(6)各家庭を見守る青パト活用で虐待の早期発見ができるのではないか。
区長 (1)個人情報の適正な取り扱いに配慮し、子どもの安全を最優先に考え、行政内の情報連携に努めていく。(2)必要な情報が共有化されるよう関係所管同士の連携を徹底していく。

教育長 (3)関係部署、関係機関との連携・協力のもとに、学校の安全・安心の

確保に努めていく。(4)危機管理や子どもの安全・安心の確保という観点から、今後、調査・研究すべき課題と受け止めている。
区長 (5)電気料や共架料補助を実施するなど都区が連携して町会等による防犯カメラの設置・運営を促進している。(6)生活安全パトロールは、巡回により地域の犯罪防止と子どもの安全対策が目的だが、突発的に発生する事象についても対応できるよう、警察署などと連携を図りながら事業を進めていく。

いく。
<オープンデータ促進>
 オープンデータの取り組みを加速し、東京都オープンデータカタログサイトとの接続について伺う。
区長 サイトの充実が今後期待されるので、東京都オープンデータカタログサイトに参加していく。

<ひととひとがつながるまちづくり>
 渋谷区の「おとなりサンデー」(※1)や静かな夜を楽しむ目黒区なりの「ナイトタイムエコノミー」(※2)で、人と人が直接つながる機会を創出するまちづくりを進めてはいかがか。

【用語解説】
 ※1 おとなりサンデー:渋谷区が2017年から行っている取り組み。6月の第一日曜日、渋谷区内の公園等の公共空間を利用しやすくし、在住・在勤の人たちがやりたいことを同じ日にやってみること。
 ※2 ナイトタイムエコノミー:午後8時から翌朝午前3時までの間の経済活動。

請願・陳情の受付についてお知らせします

請願・陳情は区政に関する事柄等について、区民の皆さんが直接、区議会に要望できる制度です。請願には議員の紹介が必要です。議員の紹介がない場合は陳情となりますが、目黒区議会では請願と同様に扱います。受付は常時行っていますが、定例会の会期中の委員会で審査するために、事務の手續き上、会期の約1週間前(区役所が休みの日を除く)までに提出していただいています。この締切日は、めぐろ区議会だより・めぐろ区報・目黒区議会ホームページでお知らせしています。請願・陳情は直接提出していただくこととしています。郵送によるものは原則として審査を行いません。令和元年第3回定例会で新たに請願・陳情の審査を希望される場合は、**8月28日(水)正午まで**に提出してください。なお、受理した請願・陳情の要望する事項とその理由は、個人情報等に該当する部分を除いて、目黒区議会ホームページに掲載しますのでご了承ください。
<問い合わせ>区議会事務局課事・調査係 ☎03-5722-9414

